千賀達朗研究会

[tatsuro-senga.net/ug-seminar-keio.html]
[t.senga@keio.jp]

活動内容（マクロ経済学、ファイナンス）

学術論文の発表

世界の経済学者が解明しようと挑んでいる最先端の問題に触れてもらうことを主眼に、学部生でも（頑張れば）理解できる論文をピックアップして読み進めていきます。

主に企業の投資、財務、M&A行動、技術革新に焦点を当て、それらがマクロ経済全体のイノーベーション、生産性や成長に与える影響を扱う論文を扱っていますが、教員とゼミ生の関心事に合わせています。なお、2023年秋学期は労働市場におけるジェンダーギャップ、経済の構造変換。

企業データ分析

最先端の研究は主に海外の事例を対象にしたものが多いので、日本企業のデータ（財務情報、有価証券報告書のテキストデータなど）を用いて同じ結果となるのか、そうでないなら何故なのか考えていきます。

チームを組んでデータ分析に取り組みながら、Pythonなどでプログラムを書くことに慣れていくほか、AIを効果的に取り入れていくことを皆で模索しています。

グループ論文（三田祭論文など）

上述の活動を通じて醸成した問題意識とスキルを組み合わせて、複数人のグループ毎に論文作成を行います。夏休み中の作業も必要になることが多いと思います。

卒業論文

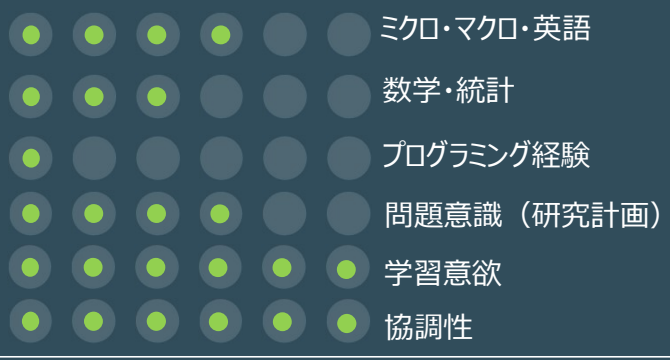
ゼミ活動の集大成。三田祭論文からさらに発展させたスキルを論文に昇華させることが期待され、自分の関心分野について専門家として掘り下げていくことを目指します。

向上を図るエリア

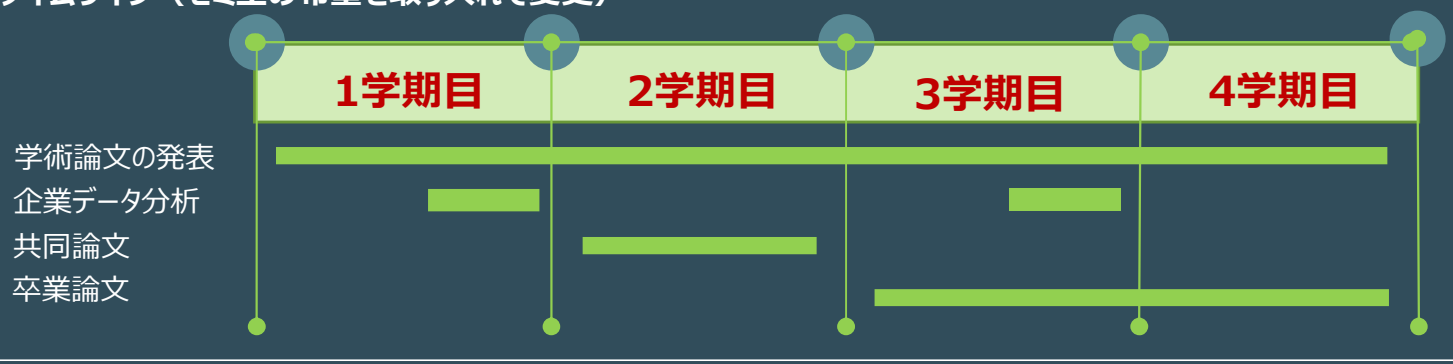
	強度
経済学を使った思考法	10
英語で書かれた文章を読む力	10
英語を母語とする人たちの文章記述法	7
数学・統計	6
プログラミング（データ分析、シミュレーション手法）	8
効果的なプレゼンテーション	10

★ 少人数なので、学期中に発表する機会が多い
★ 本ゼミに集中、ただしゼミ時間中は脳をフル回転
★ 教科書の輪読はなし、先端の研究に触れてもらう
★ テクニックよりもエコノミストとしてのセンスを養う

入ゼミ時に求めるもの



タイムライン（ゼミ生の希望を取り入れて変更）



- 2021年度、1期生：9名（うちPearl生1名）
- 2022年度、2期生：6名
- 2023年度、3期生：6名（うち女性2名、Pearl生2名）

2024年度は5－10人程度の募集予定。面接についてはゼミ公式WEBサイトを確認してください。

担当教員について

2006年慶應義塾大学経済学部卒業後、日本銀行入行。
2015年オハイオ州立大学PhD取得後、ロンドン大学で教鞭。
2020年慶應義塾大学経済学部へ赴任。

詳細はこちら